

あこやがちゃん



ほなつ 穂夏ちゃん(平成17年6月30日生)

両親=鵜之澤健二・幸子さん(二)  
「うつぶせが大好き!

こんな顔が上がるようになったよ。」

あゆめ 杏優・友萌ちゃん

(平成14年11月27日生・平成17年8月29日生)

両親=吉野学・みどりさん(江ヶ崎)

「お姉ちゃんになったの。  
これからいっぱい遊ぼうね。」



たくま 拓真ちゃん(平成13年5月7日生)

両親=井橋悟志・広美さん(井戸野)  
「どう?かっこいいでしょ。」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健福祉センター、飯岡保健福祉センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。

続いて、三月二十一日は、松澤の熊野神社の神楽。トリを飾るのは、三月二十七、二十八日、鎌数伊勢大

これからは神楽シーズン。今回は冬から春の訪れを告げる地元の祭礼をご案内します。神楽は日本神話の神様に捧げられた歌や踊りが始まりといわれています。天岩戸に隠れた天照大神に外に出てもらうため、ほかの神様がその前で踊ったという神話はその起源として知られています。古事記や日本書紀の中の古い物語が、演目として取り上げられているのはそのためです。次第に能や歌舞伎の影響を受け、娯楽や演劇の要素が加わり、広く各地の神社などで奉納されるようになったものが、現在の姿といわれています。

二月の第一日曜日には、俗に後草神楽とも呼ばれる水神社の神楽が行われます。その歴史は古く、鎌倉時代初期からの記録もある伝統的なもの。境内に仮設の舞台が作られ、オドウ(当屋)と呼ばれる家から氏子たちが神社に向かい、その後四時間をかけ、演目が奉納されます。踊り手、神楽師、笛、大太鼓、小太鼓の担当者は練習を重ねて本番に臨みます。かわいらしい稚児舞も見所のひとつです。

〔大原幽学記念館 猪野映里子〕

神宮の大祭である神楽。こちらの二社は、境内にある神楽殿を舞台に演目が披露されます。市内で行われる神楽は十二座、つまりおおよそ十二の場面で構成されています。猿田彦、恵比寿、翁、保食(ウケモチ)、手力男(タチカラオ)、田神(タノカミ)、鉦女(ウズメ)、八幡(ヤワタ)など、神話や登場人物を予習しておく、見る楽しみがぐっと増します。またほとんどの演者がつける面にも要注目、役柄による造作や持ち物の違いもおもしろいものです。この三つの神楽、いずれも県指定無形民俗文化財。防寒対策を万全にし、最後の餅まきまでしっかりと堪能してみましょ。



紙上展示室 — 旭モノ語り — 第七回  
水神社永代大御神楽

暮らしのカレンダー

- 2日(木) 環境衛生大会 (14:00~ 東総文化会館)
- 3日(金) 節分会 (市内各寺・神社で開催)
- 5日(日) 第17回旭市飯岡しおさいマラソン大会 (8:30~ いいおかユートピアセンター)
- 11日(土) 建国記念の日
- 16日(木) 市県民税、所得税の申告受け付け開始 (~3月15日)
- 19日(日) 第1回グリーンコンサート (13:00~ 東総文化会館)
- 26日(日) 第1回旭市民駅伝大会(8:20~ 東総運動場ほか)

編集後記  
私たちの日常会話では、「あれが好き」「これが嫌い」といった好き嫌いについての内容が多くを占めているということに聞いたことがあります。よく考えた末のことか、ただ単純に思い込みや先入見によるかは別にして、ものごとを好き嫌いや良い悪いのどちらかに決めてしまうということは、普段の言動を振り返ってみても、よくあることだと思えます。でも、そんなとき、時々でも「本当にそうか」と立ち止まる余裕が持てたら、すてきたと思います。(一)